



証券コード：4584

Kidswell.Bio

会社説明資料

2023年9月20日

バイオで価値を創造する
—こども・家族・社会をつつむケアを目指して—

キッズウェル・バイオ株式会社

キッズウェル・バイオ株式会社 Kidswell Bio Corporation

設	立	2001年3月		
上	場	2012年11月（東証グロース）		
資	本	金	1,511百万円（2023年6月30日現在）	
所	在	地	本社 東京都中央区新川一丁目2番12号 研究所 札幌研究所（北海道大学内） 東京研究所（三井リンクラボ新木場2）	
従	業	員	数	42名（2023年6月30日現在）
主	要	株	主	ノーリツ鋼機株式会社、NANO MRNA株式会社、JSR株式会社、千寿製薬株式会社
事	業	内	容	バイオシミラー事業、細胞治療事業（再生医療）、バイオ新薬事業

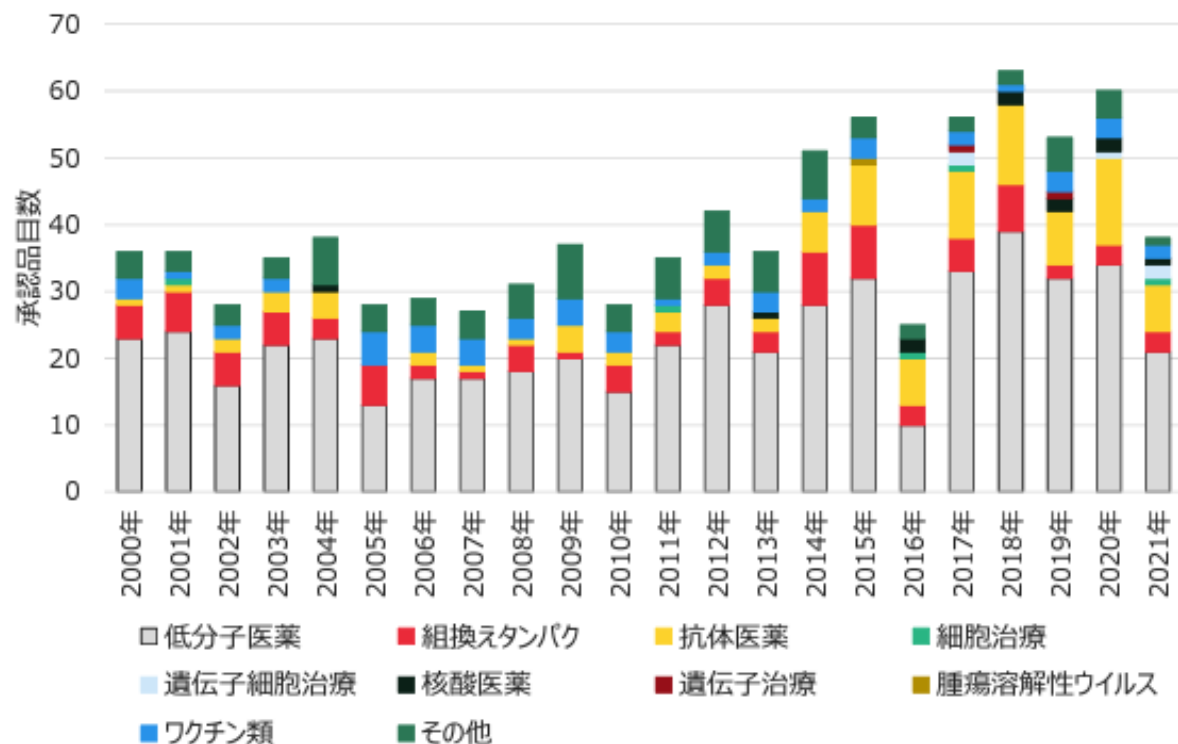
- ◆ **第一部：バイオ・医薬品産業の特性**
 - ・ **医薬品モダリティ（治療手段）の特徴**

- ◆ **第二部：当社のご紹介**
 - ・ **キッズウェル・バイオについて**
 - ・ **事業内容 -収益基盤と成長ポテンシャル-**
 - ・ **成長戦略**

- ◆ **補足情報**

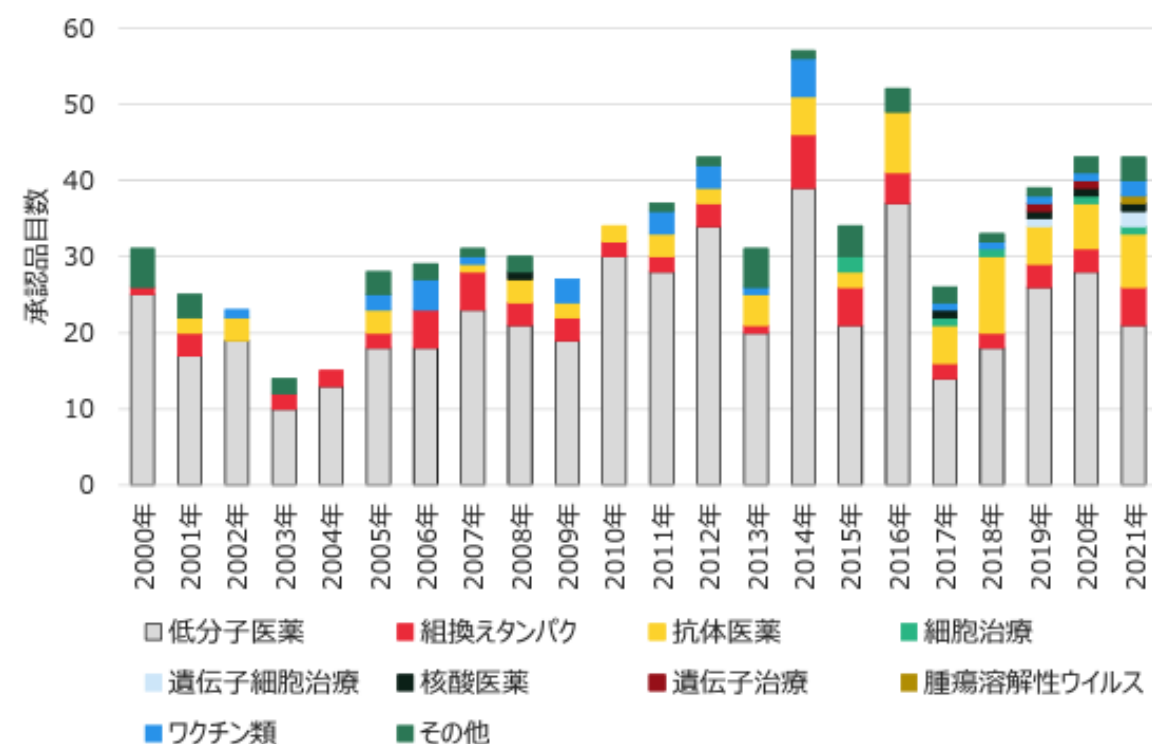
第一部：バイオ・医薬品産業の特性

- バイオ領域の技術革新により、新薬の創出可能性が拡大
- アンメットメディカルニーズに対する画期的新薬の創出が進む



FDAにおけるモダリティ別承認品目数（海外）

FDA: Food and Drug Administration (米国食品医薬品局)



PMDAにおけるモダリティ別承認品目数（日本）

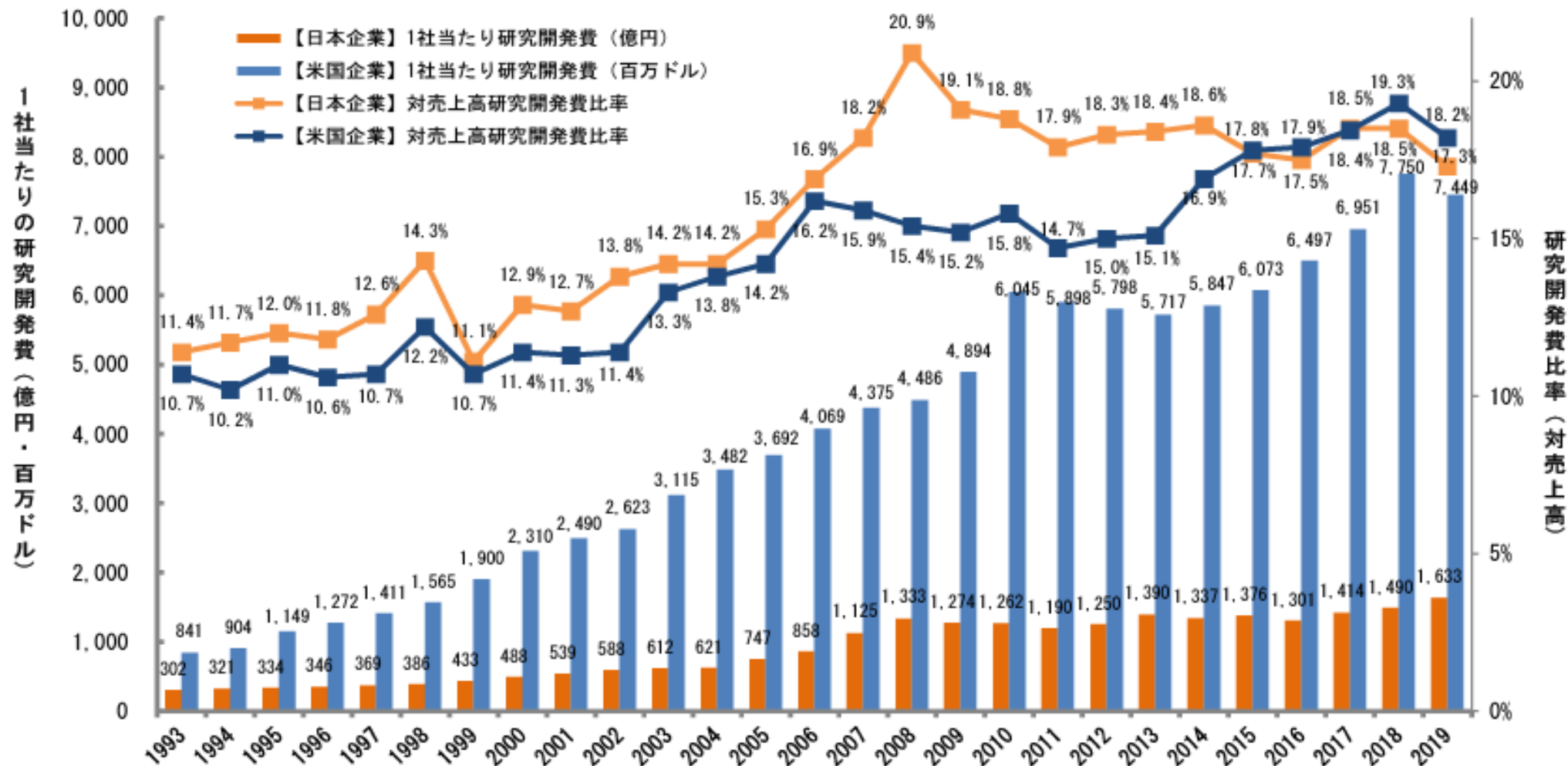
PMDA: Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (独立行政法人医薬品医療機器総合機構)

ワクチン・治療薬を含め、売上高上位の半数以上がバイオ医薬品で占められる

※単位：100万ドル

順位	製品名	2022年度の売上高※	領域	モダリティ	販売会社・起源会社
1	コミナティ	37,806	感染症予防	ワクチン	ファイザー／ビオンテック
2	ヒュミラ	21,615	筋骨格系用薬	抗体	アッビイ／エーザイ
3	キイトルーダ	20,937	抗がん薬	抗体	メルク
4	パキロビッド	18,933	抗感染症薬	低分子	ファイザー
5	スパイクバックス	18,435	感染症予防	ワクチン	モデルナ
6	エリキュース	18,269	循環器用薬	低分子	BMS／ファイザー
7	ビクトルビ	10,390	抗感染症薬	低分子	ギリアドサイエンシズ
8	ステラータ	10,220	皮膚科用薬	抗体	J&J／田辺三菱製薬
9	アイリーア	10,198	感覚器用薬	蛋白質	リジェネロン／バイエル／参天製薬
10	レブラミド	9,978	抗がん薬	低分子	BMS
11	オプジーボ	9,294	抗がん薬	抗体	小野薬品工業／BMS
12	デュピクセント	8,741	皮膚科用薬	抗体	サノフィ
13	オゼンピック	8,485	代謝性疾患系用薬	ペプチド	ノボルディスク
14	イムブルビカ	8,352	抗がん薬	低分子	アッビイ／J&J
15	ジャディアンス	8,213	代謝性疾患系用薬	低分子	ベーリンガー／イーライリリー

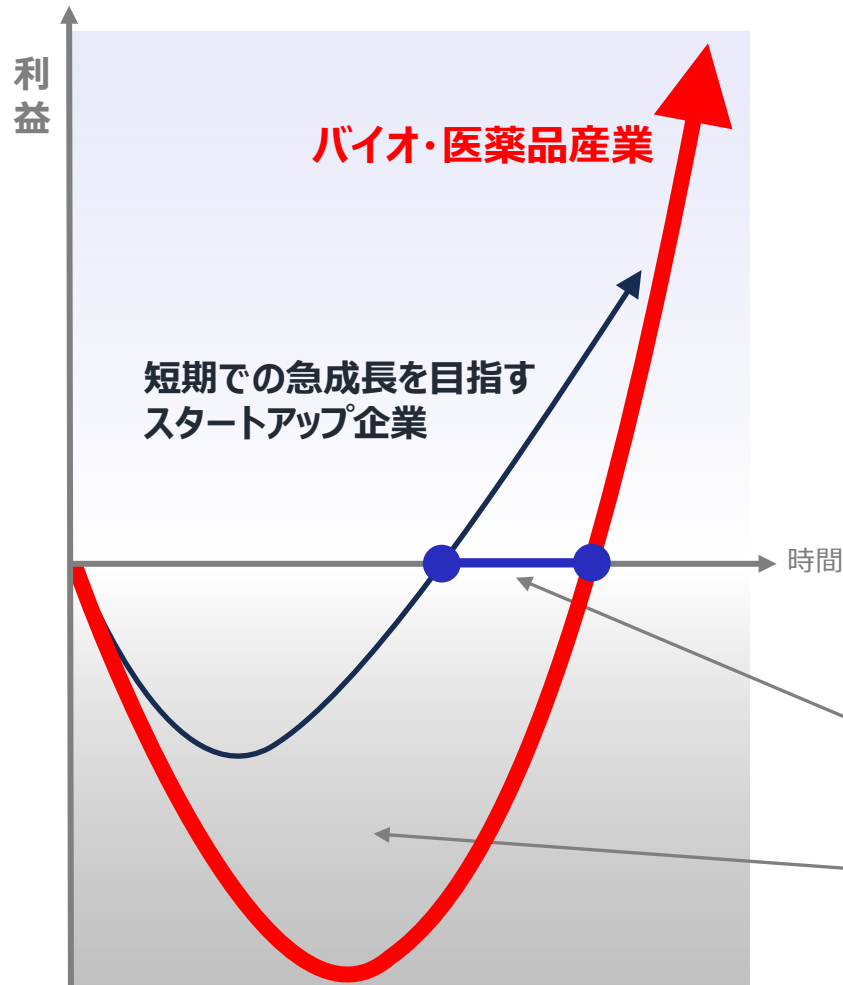
- 近年医薬品開発の難易度が上昇しており、研究開発費が増加している
- また、新薬の上市に必要な開発費は1,395百万ドル（約2,000億円、2014年）※



- 医薬品の研究開発・上市までには、10年以上の時間が必要
- 成功確率は年々低下し、医薬品開発の難易度が上昇
- モダリティが多様化する中では、新しい要素技術を組み合わせた研究開発も必要となるため、さらにその難易度が高まっている



創薬系スタートアップ企業は他の産業よりも多額の先行投資が必要だが、
成功に伴う収益は先行投資を大きく上回る



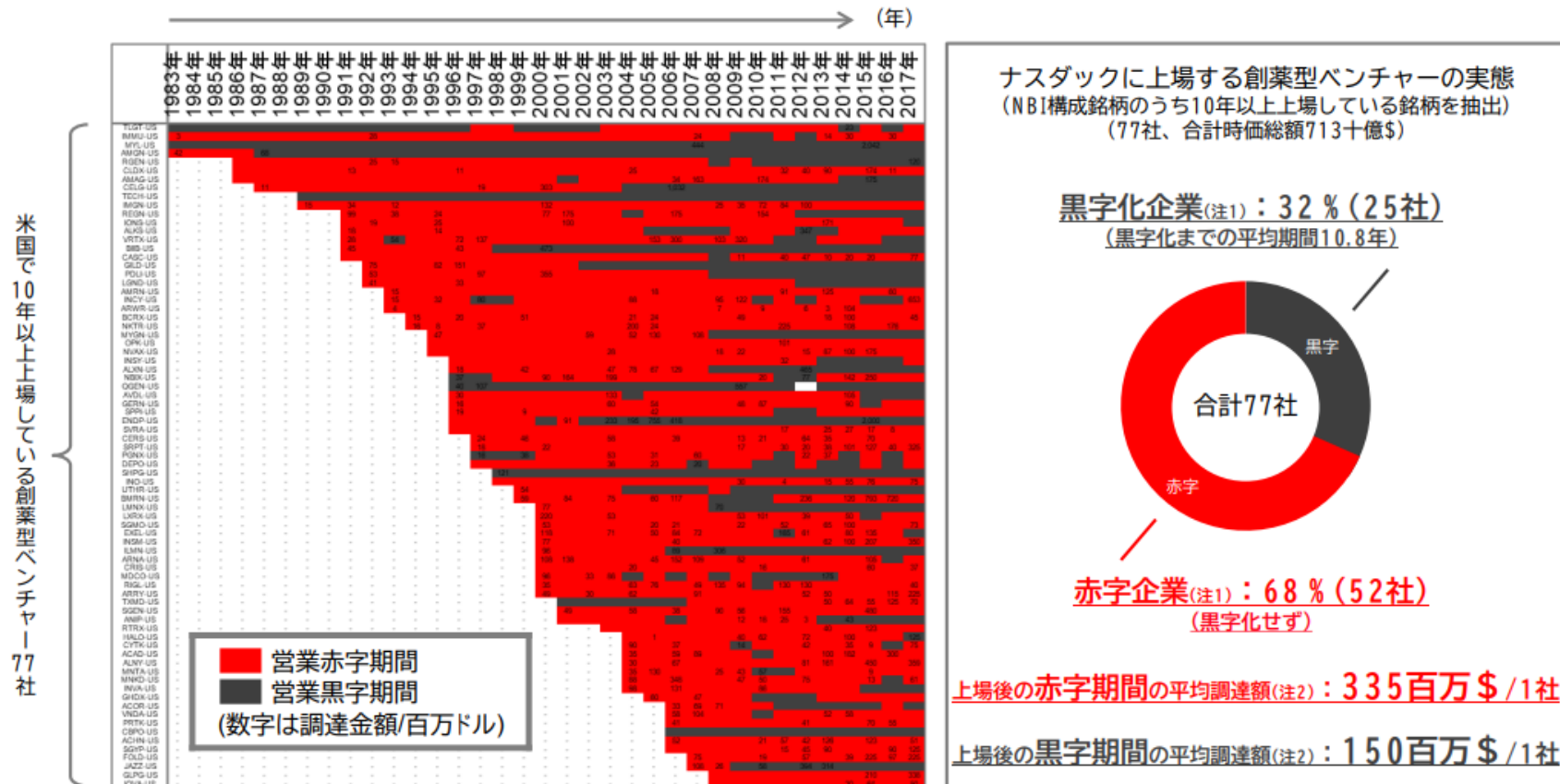
- 医薬品ビジネスが成功し売上が確保できるまでは、一般的に、株式発行を伴う資金調達によって研究投資が推進されるが、医薬品の開発が成功すると調達額を大きく超える経済価値の創出が可能となる
- 先行投資期間は他の産業よりも長い、リターンも大きい
- 医薬品の仮説検証や開発などの先行投資フェーズ

米国創薬ベンチャー企業は、上場後の資金調達により成長を加速

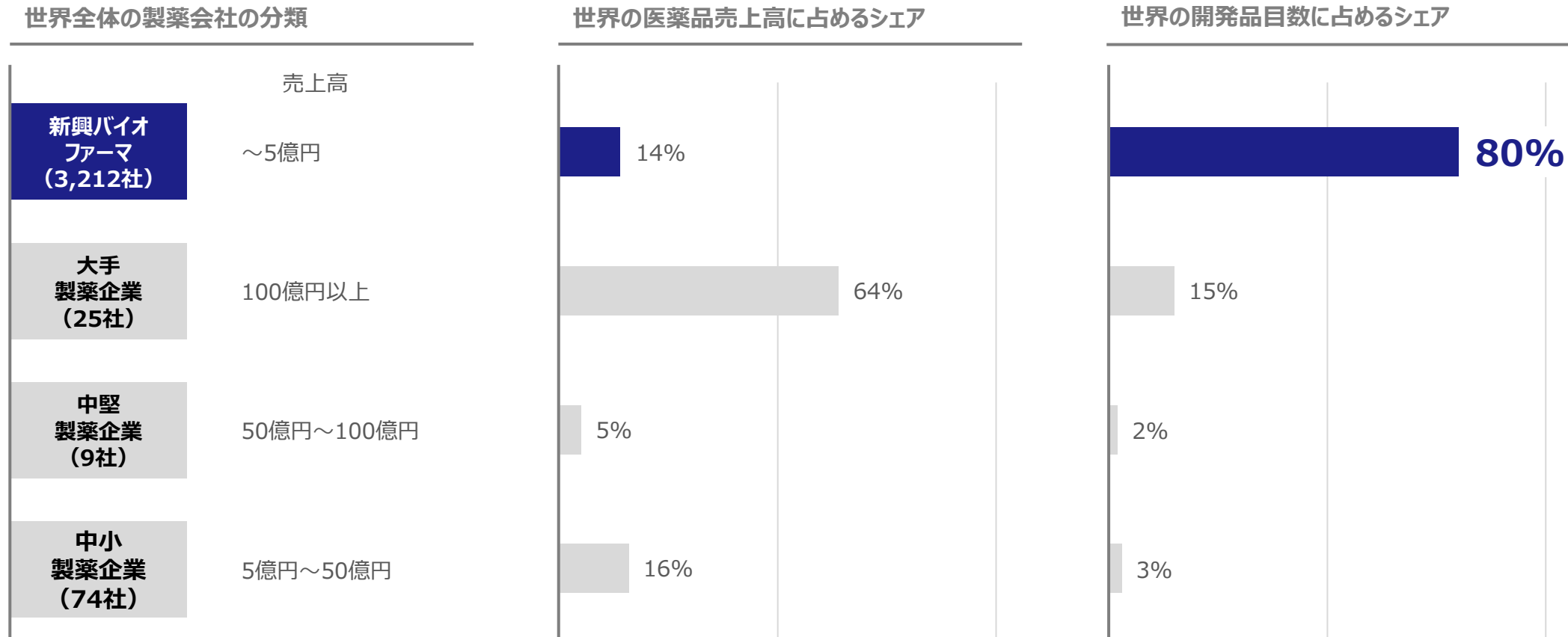
課題

米国の上場創薬型ベンチャーをみると、投資家に支えられた上場後の資金調達が成長を加速

NBI（ナスダックバイオテクノロジーインデックス）構成銘柄の営業赤字期間/資金調達額等
 (NBI構成銘柄198社のうち10年以上の期間上場している77社を分析/2018年4月時点)

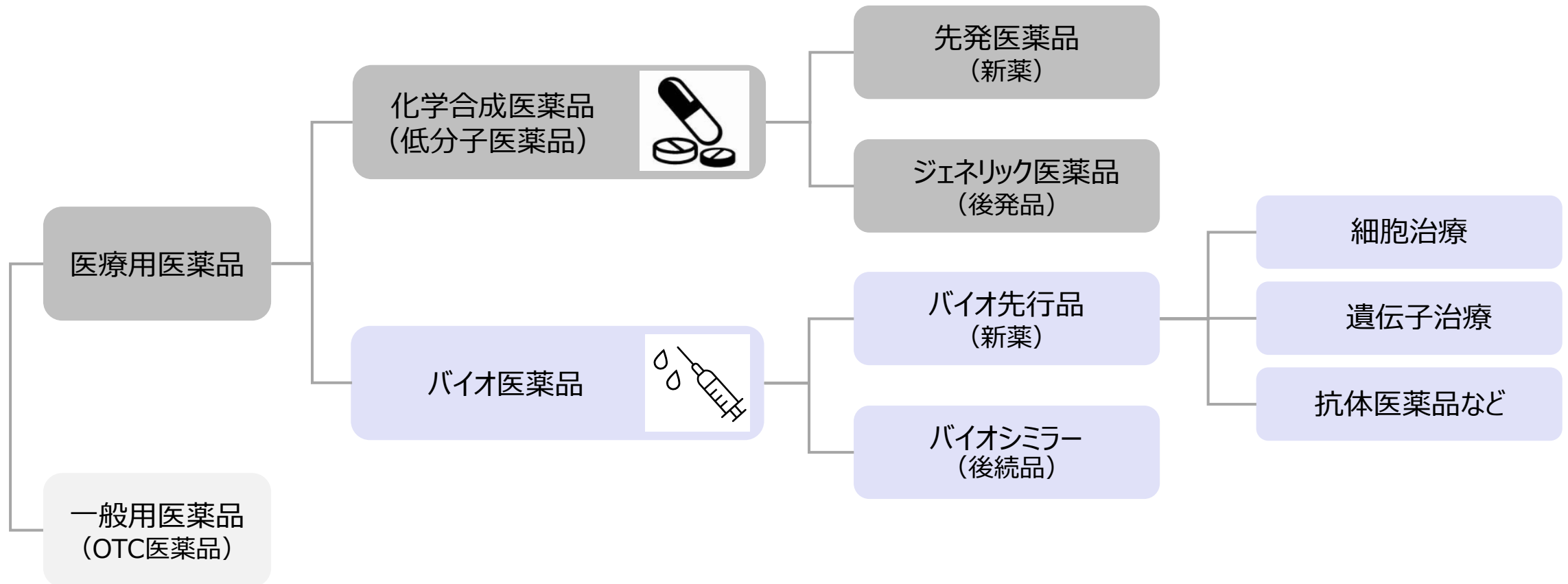


現在の医薬品産業ではバイオベンチャー企業が新薬の創出主体

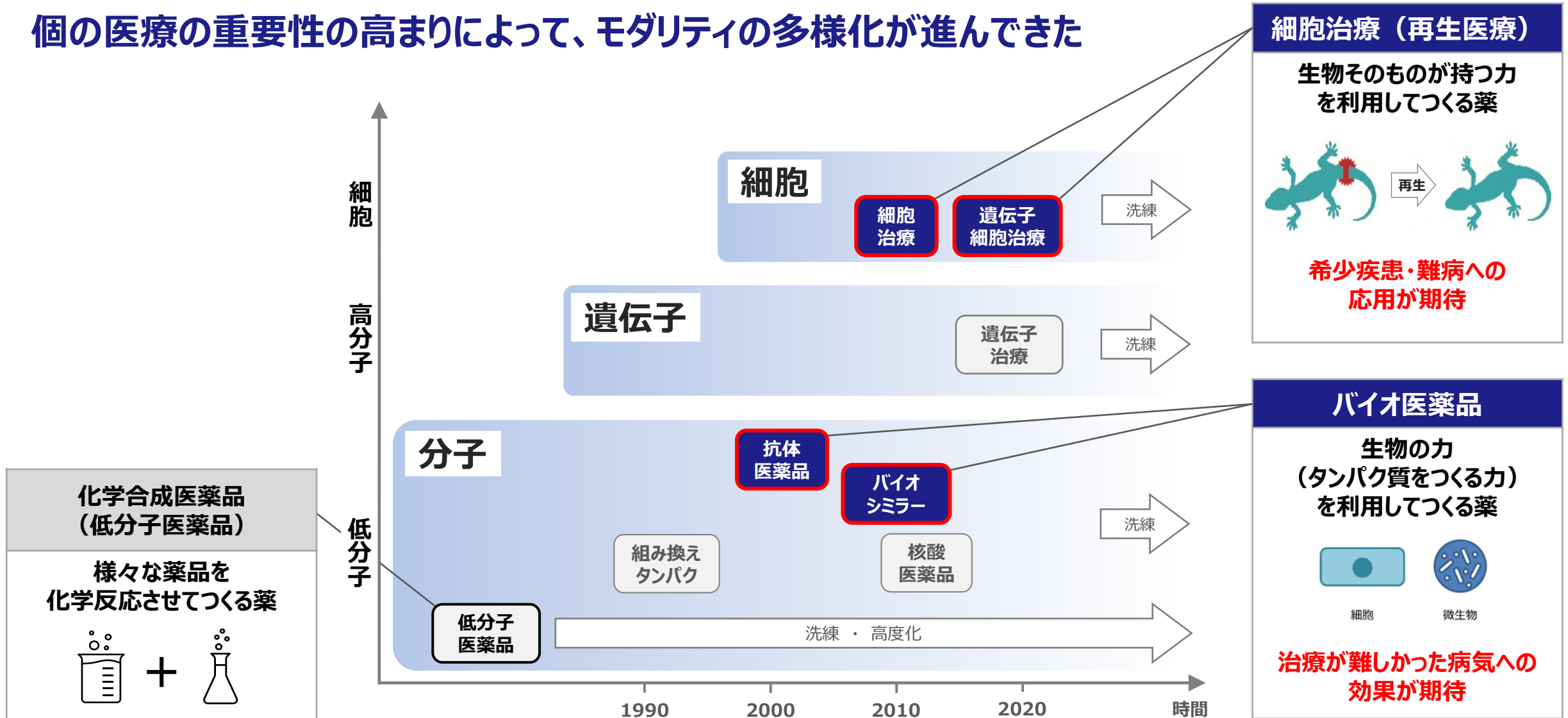


医薬品モダリティの特徴

バイオテクノロジー、創薬技術の進展により低分子医薬品以外の数多くの医薬品が登場



個の医療の重要性の高まりによって、モダリティの多様化が進んできた



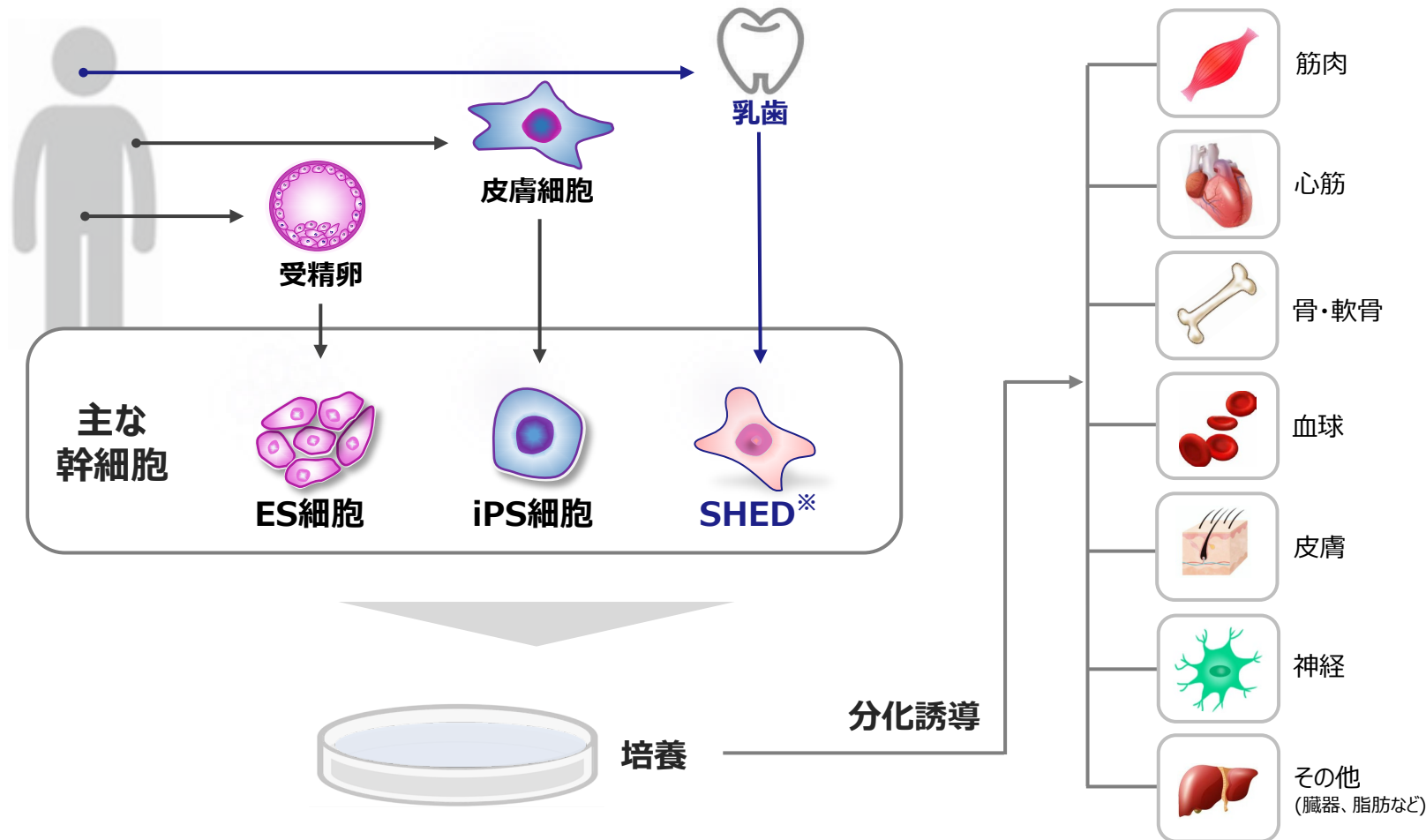
バイオ医薬品と化学合成医薬品（低分子医薬品）の違い

	バイオ医薬品	化学合成医薬品
	細胞で生産	化学合成
製造方法	  <small>細胞</small> <small>微生物</small>	 + 
製造工程	コントロール困難	コントロール可能
製造コスト	高額	安価
効果・安全性	高い (化学合成医薬品との比較)	—
薬価	高額	比較的低い
研究開発・上市	高度な技術・ノウハウが必要 (化学合成医薬品との比較)	—
剤形（投与方法）	主に注射剤	錠剤など
構造	複雑	比較的単純
品質	変わりやすいため 適切な品質管理が必要	比較的一定

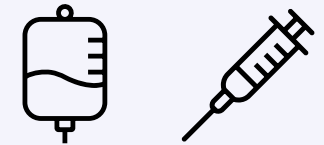
バイオシミラーとジェネリック医薬品の違い

	バイオシミラー (バイオ医薬品)	ジェネリック医薬品 (化学合成医薬品)
先発/先行医薬品	バイオ医薬品	化学合成医薬品 (低分子医薬品)
先発/先行医薬品との成分比較	同等性/同質性 (類似性)	同一であること
製造コスト	高額	安価
薬価	先発品の70%	先行品の50%
剤形	主に注射剤	錠剤など
製造販売後調査	原則 実施する	原則 実施しない

細胞治療・再生医療は疾患の根本治療、希少疾患や難病への新たな治療薬として開発が期待される



創薬への応用
(安全性/有効性の評価)

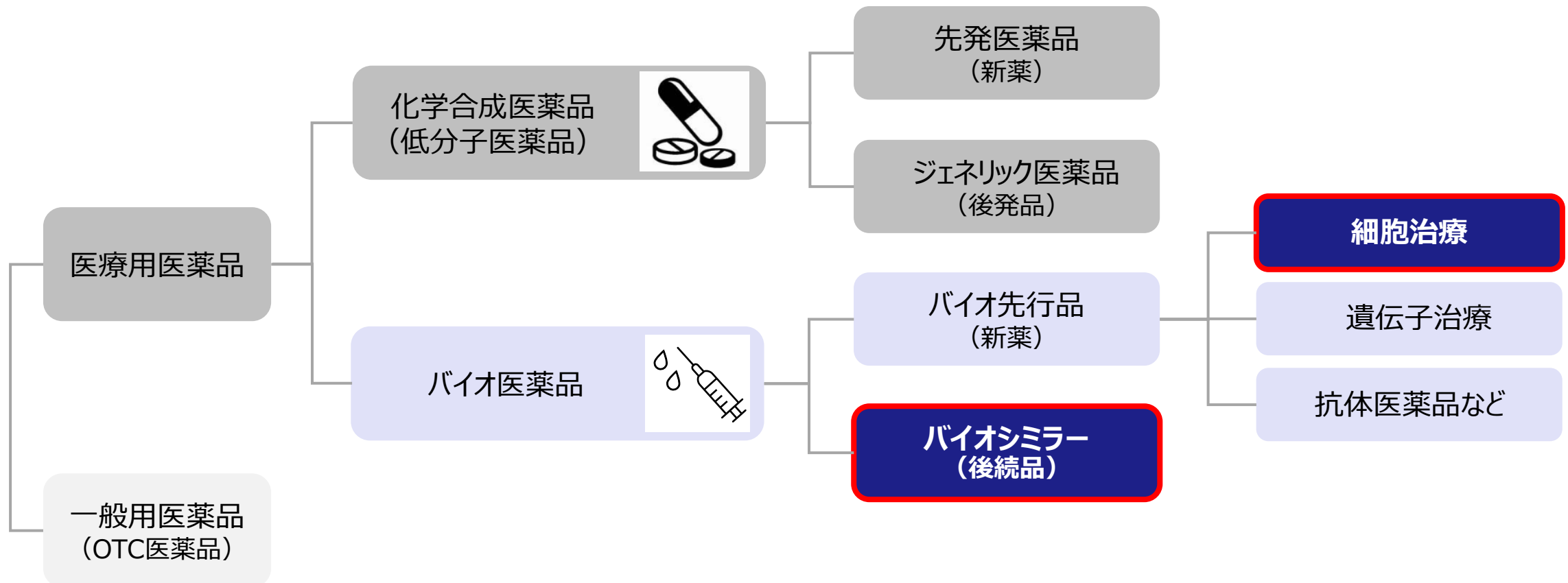


治療への応用
(細胞移植など)



※SHED: Stem cells from Human Exfoliated Deciduous teeth (乳歯歯髓幹細胞)

高い収益性及び将来性のある医薬品のモダリティ分野で事業を推進する



第二部：当社のご紹介

キッズウェル・バイオ (KWB) について

こどもの力になること、こどもが力になれること KIDS WELL, ALL WELL

注力領域

小児疾患（若年性疾患含む）
難病、希少疾患

事業の方向性

治療法が不十分な疾患に
対する医療を提供する



明日の“こども”たちへ

- 少子高齢化が全世界で課題となっている現代社会において、次の世界を築き支えるこどもたちの負担を軽減するのは大きな社会課題
- 病気に苦しむ患者様に早期に新たな治療薬・治療法を提供し、こどもも、こどもを支える大人も、みんなが幸せに明るく暮らすことができる社会の実現に貢献する



紅林 伸也 (くればやし しんや) 代表取締役社長



2024年6月	マサチューセッツ工科大学理学部物理学科 修士課程修了
2004年4月～	ゴールドマン・サックス証券(株) 投資銀行本部にて、投資銀行業務、企業買収・企業投資業務に従事
2009年8月～	モルガン・スタンレー証券(株) (現 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)) 投資銀行本部にて、投資銀行業務に従事
2014年10月～	独立行政法人科学技術振興機構にて、内閣府ImPACTプログラムの立ち上げに参画
2015年9月～	(株)再生医療推進機構 (現 (株)セルテクノロジー) にて、管理部立ち上げ、事業開発及び上場準備を推進
2019年3月～	当社入社 執行役員 事業開発本部長 就任
2023年6月～	当社代表取締役社長 就任

取締役	代表取締役社長	紅林 伸也	元 ゴールドマン・サックス、モルガン・スタンレー、(株)セルテクノロジー
	取締役	川上 雅之	元 富士フイルム(株)
	社外取締役	栄木 憲和	元 バイエル薬品(株) 代表取締役会長
執行役員	最高経営責任者 最高コミュニケーション責任者	紅林 伸也	
	最高執行責任者 開発本部長	川上 雅之	
	研究本部長	三谷 泰之	元 アステラス製薬(株)
	製薬本部長	坂部 宗親	元 富士フイルム(株)
	管理統括本部長	栄 靖雄	元 アステラス製薬(株)

バイオシミラー事業から安定的な収益を獲得し、
飛躍的な成長に向けた研究開発投資を推進できるユニークなバイオベンチャー

安定性の確保

バイオシミラー事業

収益基盤

上市済3製品による収益
(4製品目：年内上市予定)

成長性の追求

細胞治療事業（再生医療）

乳歯歯髄幹細胞（SHED）を活用した
再生医療等製品の開発推進

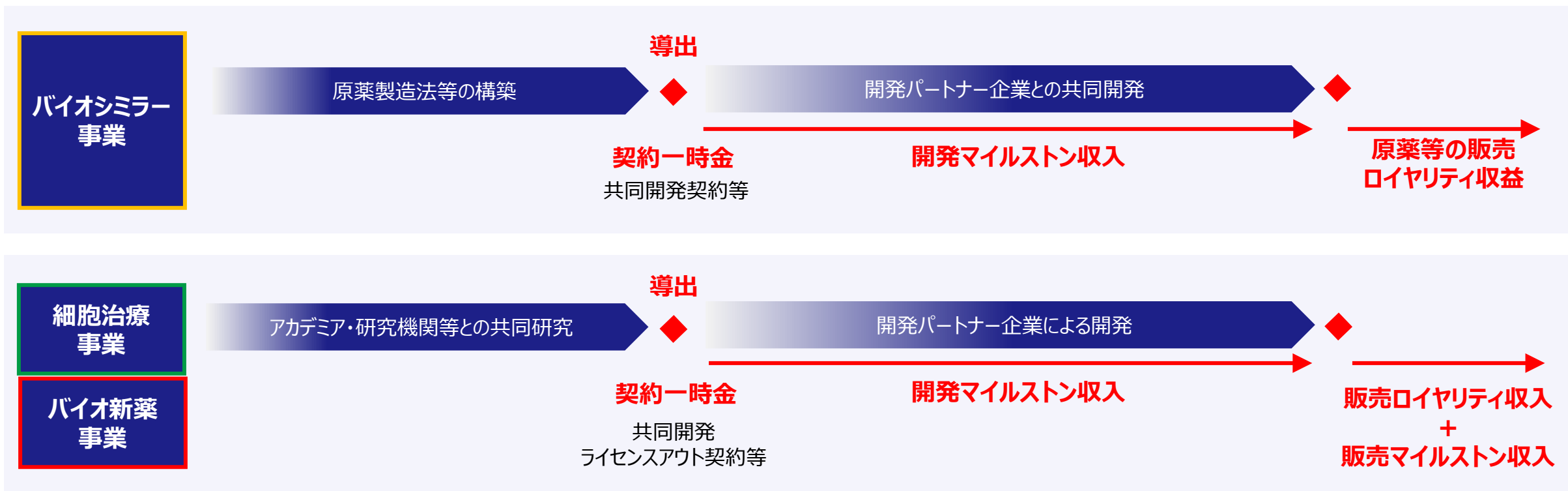
バイオ新薬事業（抗体）

新たなメカニズムの抗体医薬の創製

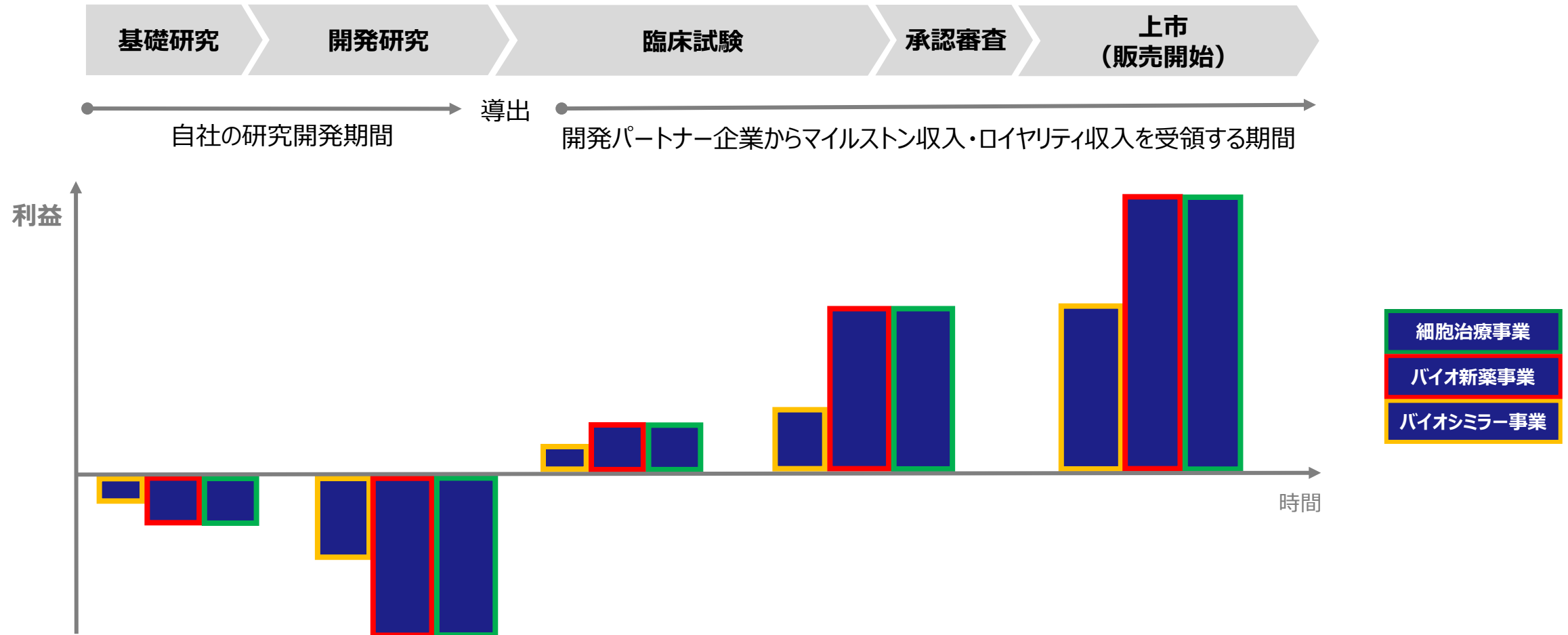
開発パートナー（製薬企業等）とのコラボレーションを目指し、効率的な開発費投資から収益獲得へ



※一般的な医薬品開発の流れ



細胞治療・バイオ新薬事業：ハイリスクハイリターン型収益モデル バイオシミラー事業：ローリスクミドルリターン型収益モデル

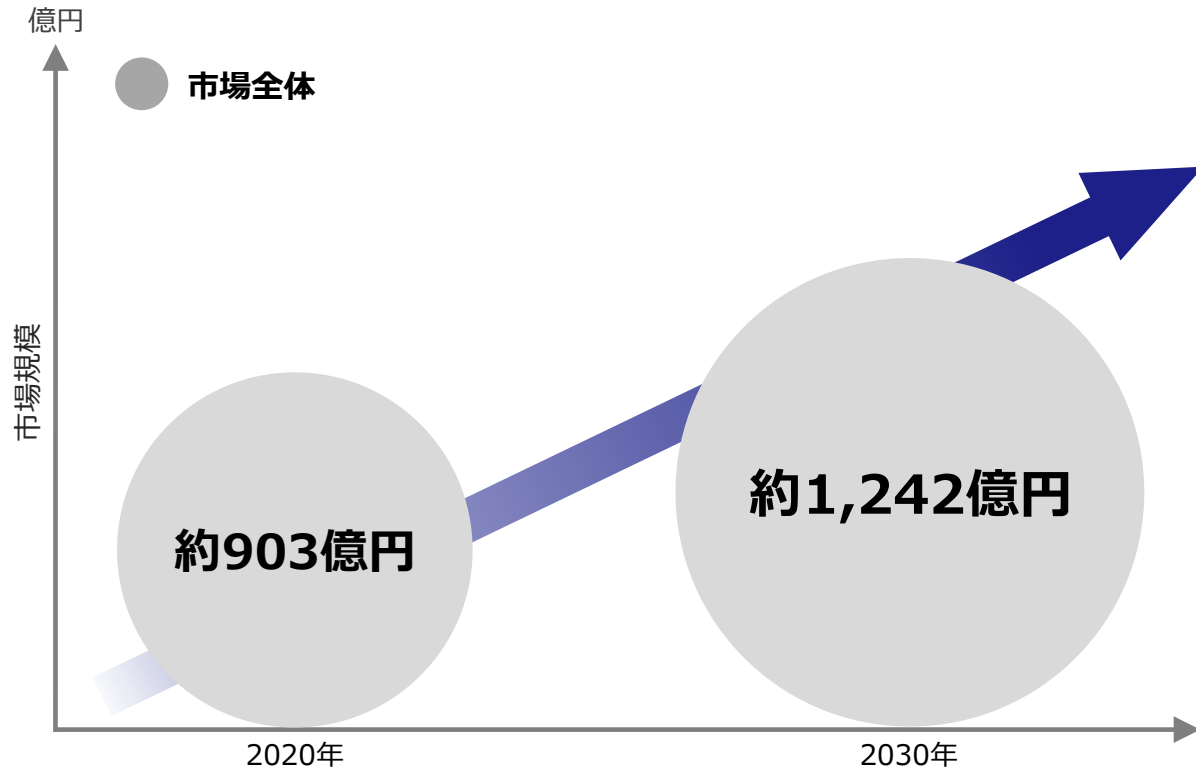


事業内容 -収益基盤と成長ポテンシャル-

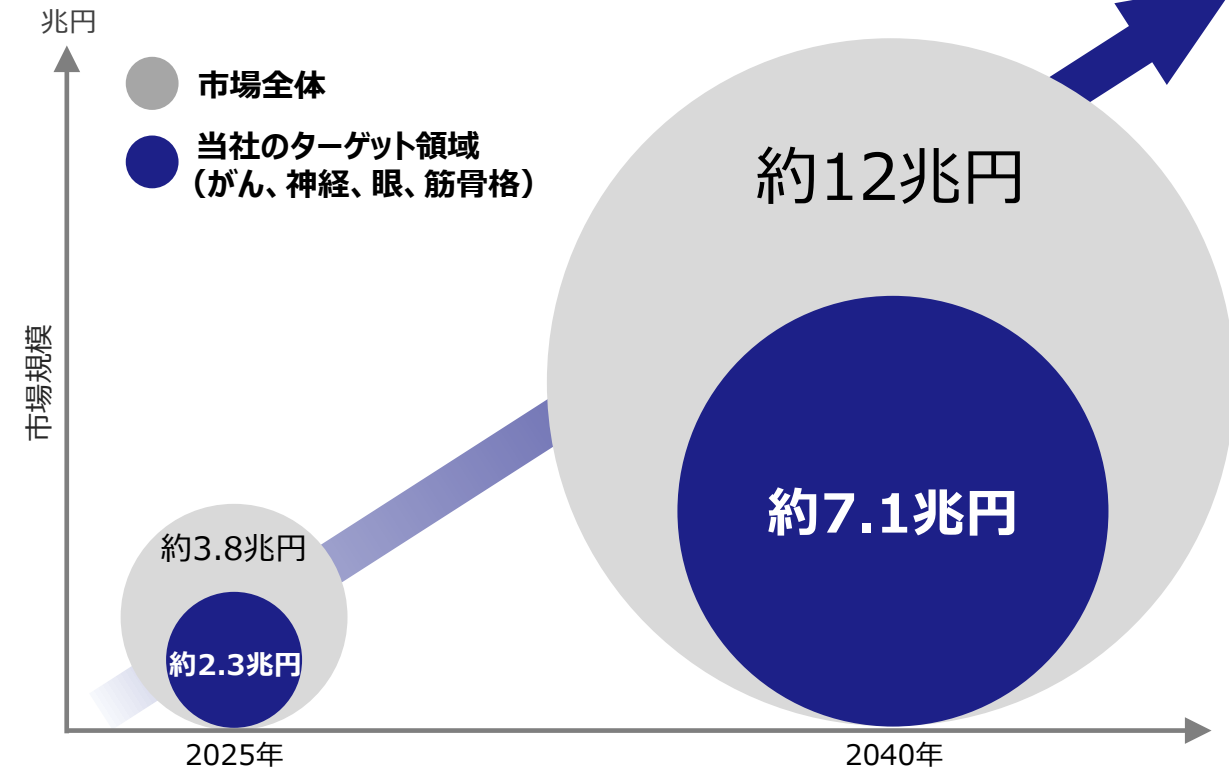
バイオ先行品の特許切れ増加に伴い、2030年以降も市場は継続して伸長する可能性

再生医療分野（細胞治療・遺伝子治療等）の市場は医薬品市場における成長分野

＜バイオシミラーの市場予測＞



＜再生医療分野の市場予測＞



出所 「2022 バイオシミラー・オーソライズドジェネリック戦略最新GE市場のトレンド分析と将来性」を基に当社作成

出所 「2019年度 再生医療・遺伝子治療の市場調査報告書 (AMED調査委託事業)」を基に当社改変

バイオシミラー事業

- 多くの国内製薬企業が低分子医薬品を中心とする事業を推進する中で、当社はグローバル製薬企業が主力とするバイオ医薬品において経験・ノウハウ蓄積、人材育成を推進
- パートナー製薬企業による臨床開発が実施されたバイオシミラーは全て上市

GBS-001

フィルグラスチムバイオシミラー
(2012年11月：承認取得)



- 好中球減少症等に用いられるG-CSF製剤フィルグラスチムのバイオシミラー

GBS-011

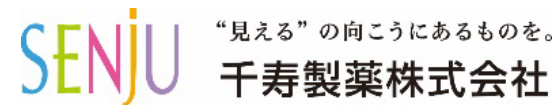
ダルベポエチンアルファバイオシミラー
(2019年9月：承認取得)



- 持続型赤血球造血刺激因子製剤ダルベポエチンアルファのバイオシミラー

GBS-007

ラニズマブバイオシミラー
(2021年9月：承認取得)

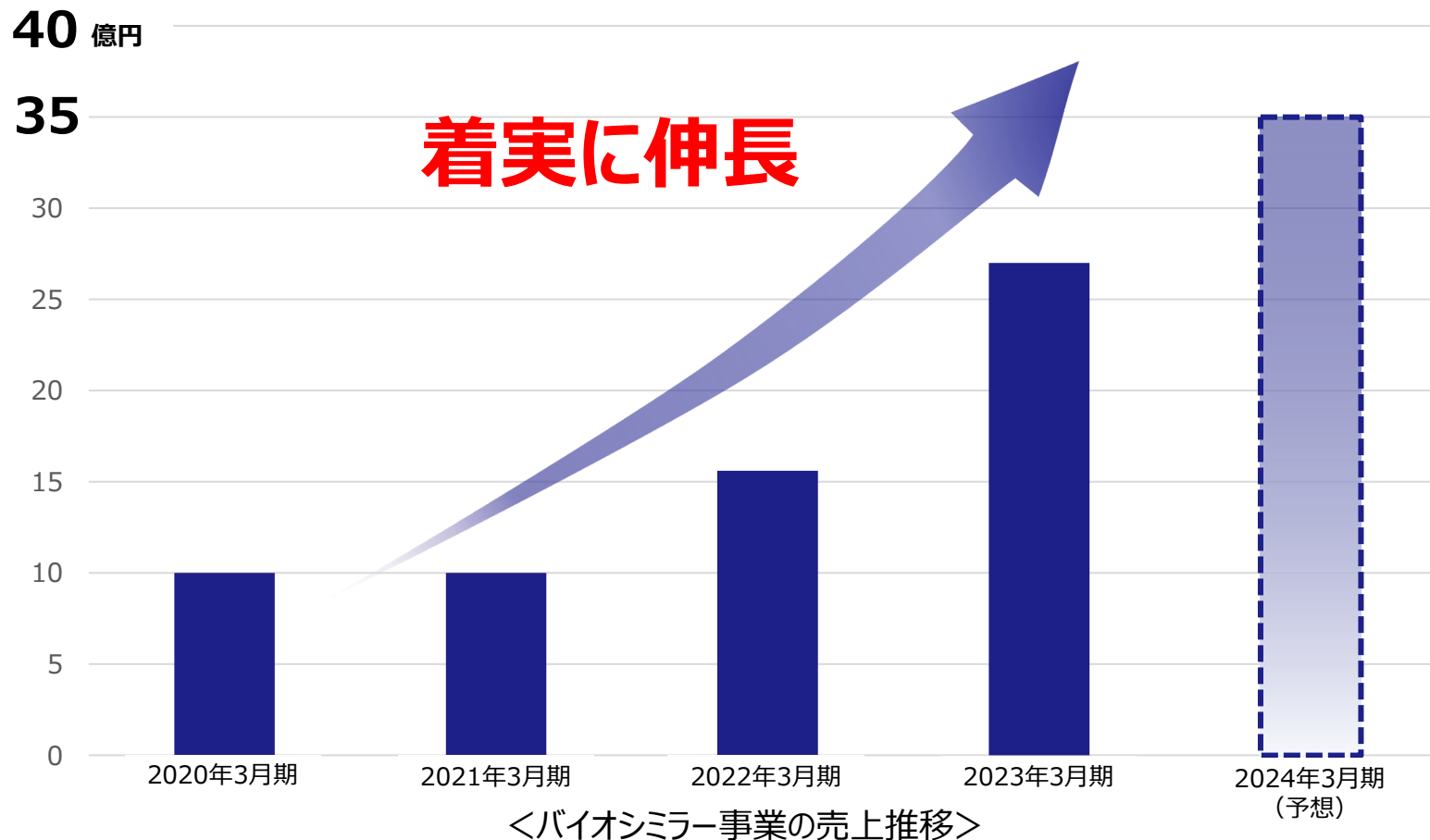


- 抗VEGF抗体薬ラニズマブのバイオシミラー
- 販売好調、想定を超える受注
- 追加適応症の承認取得(糖尿病黄斑浮腫)

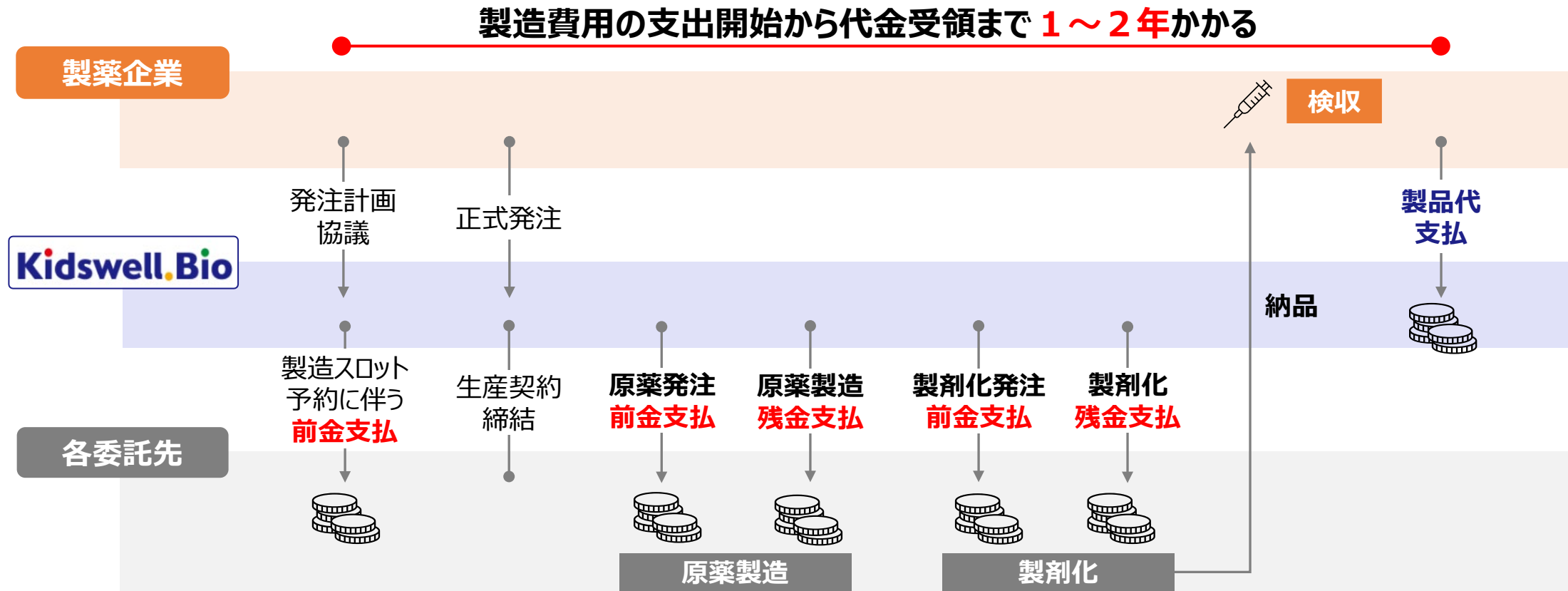
4 製品目
(年内上市予定)

詳細非開示

- 2023年内上市予定の4製品目によって更なる増収を見込む
- 安定収益の最大化を図るとともに、得られた収益を将来の成長投資へ

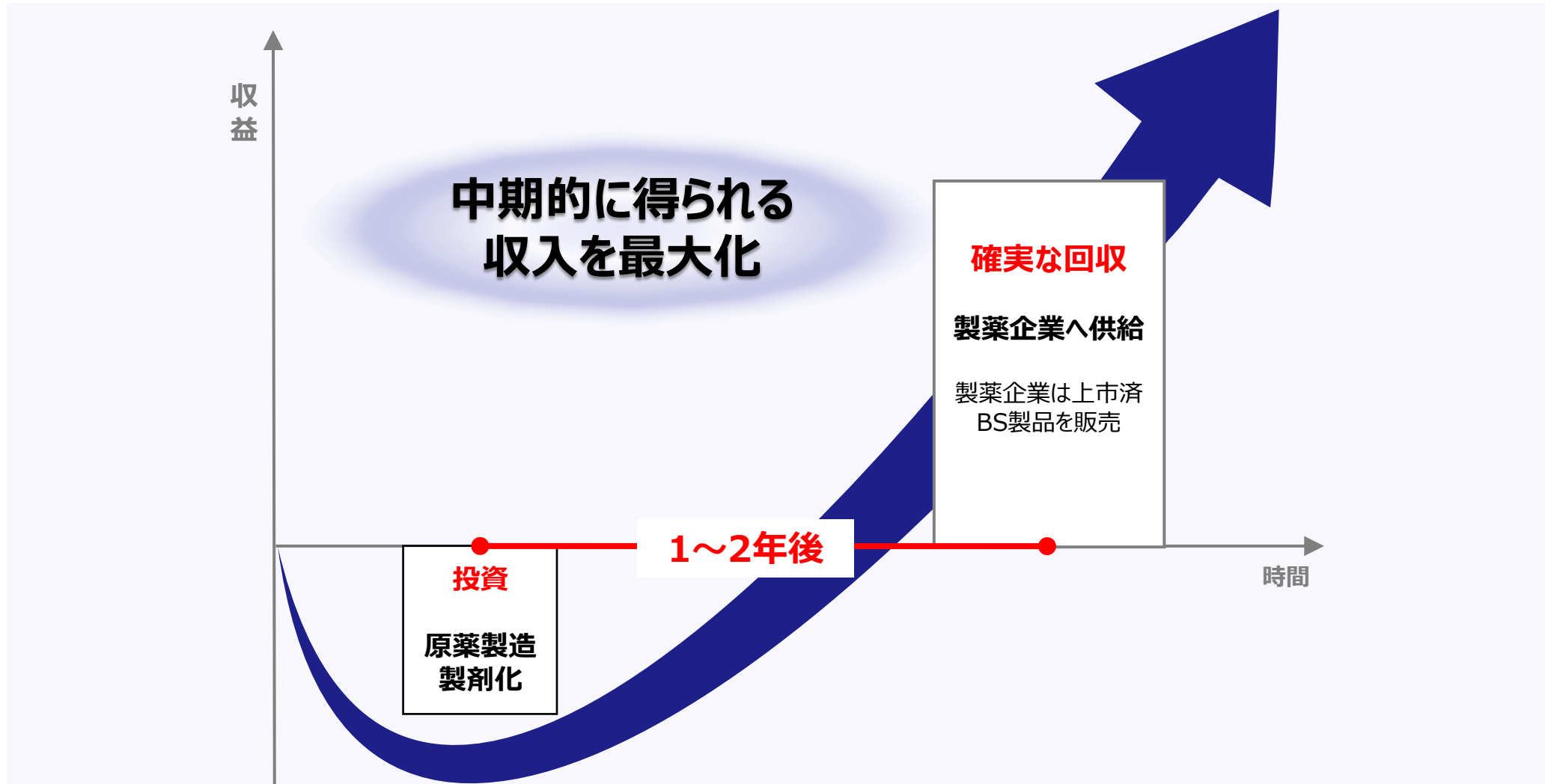


- バイオシミラー（バイオ医薬品）の製造は、低分子化合物と比べ、工程が長く複雑なため、製造に時間を要する
- そのため、製造資金の回収期間は1～2年かかる

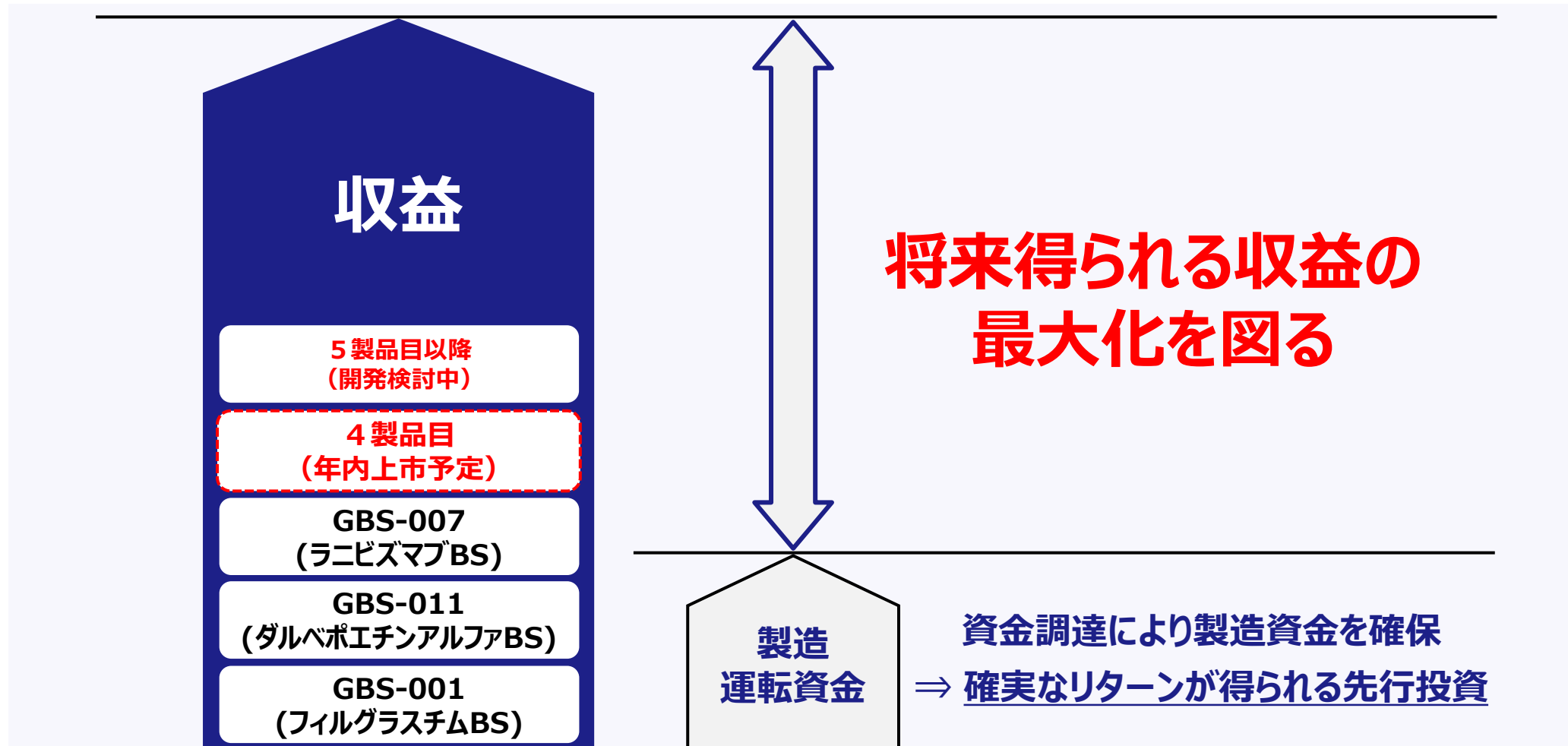


<製造運転資金の投下開始から回収までの流れ（一例）>

確実に製造と納品を繰り返すことによって、数年で調達資金を上回る利益が得られる



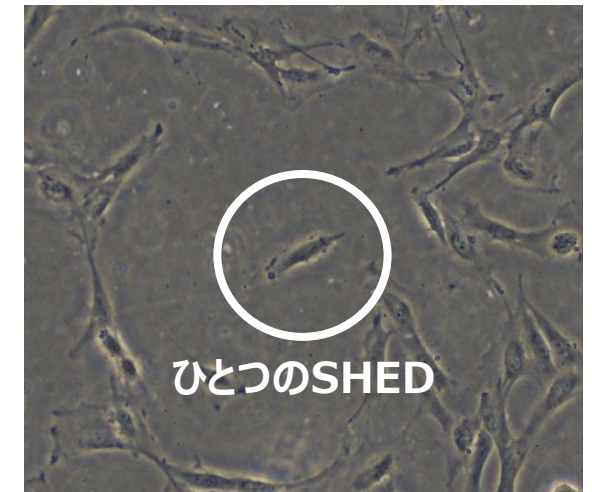
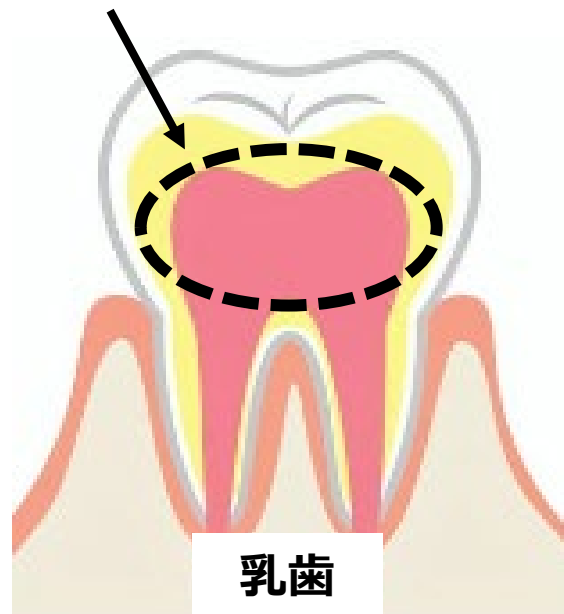
新株予約権（2023年7月発行）によって調達した資金を製造運転資金に投下することにより、2024年度以降の収益最大化が可能



細胞治療事業（再生医療）

- ・こどもの乳歯から取れる細胞（間葉系幹細胞）
- ・こどもから得られる細胞のため、**増殖能力が非常に高い**
- ・自然に抜ける乳歯を利用するため、**侵襲性（ドナー様の身体的負担）が非常に低い**
- ・こども1人から最大20本入手できるため、**安定供給が可能**

乳歯歯髄幹細胞（SHED[※]）



SHEDの特徴を活かし治療効果が期待できる疾患・損傷を選定し、
未だ有効な治療法が確立されていない疾患・損傷に対して治療薬を開発

腸管神経節細胞僅少症



(DOI: 10.7759/cureus.33680)

脳性まひ

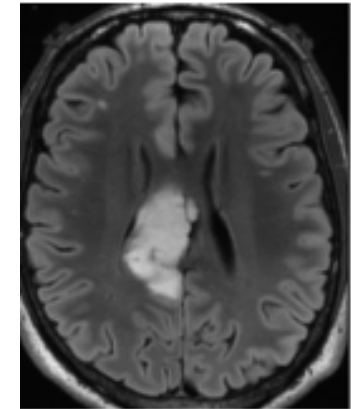


(DOI:10.1302/0301-620X.85B2.14066)



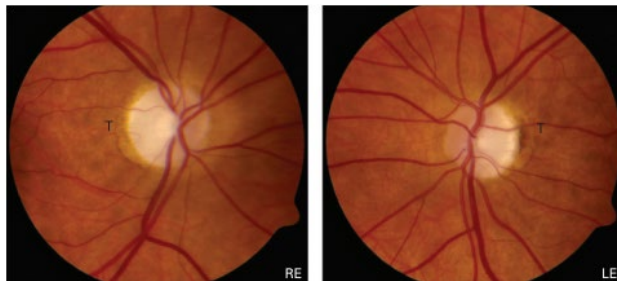
(FOUNDATION PARALYSIE CEREBRALE
"White Paper on cerebral palsy")

脳腫瘍



(DOI: 10.3390/cancers11010111)

視神経症



(doi:10.1136/jmg.2007.054270)

脊髄損傷



(DOI:https://doi.org/10.1016/S1474-4422(09)70162-0)

- SHEDの臨床開発（ヒトへの投与）に向けた準備が進み、SHEDに興味をもつ開発パートナー（製薬企業等）と契約締結に向けた協議を本格的に開始
- **開発パートナー候補先との契約締結の蓋然性が高まる**

<開発パートナーとの提携及び導出による想定される収入モデル>



※一般的な医薬品開発の流れ

名古屋大学主導の脳性まひ児に対する臨床研究の開始に向けた準備を推進

成長戦略

バイオシミラー事業の収益基盤化に目途が立ち、SHEDの臨床開発実施とその進捗に伴うパートナーリング活動による”事業価値向上の見える化”への取り組みを強化

KIDS WELL, ALL WELL

収益基盤の構築

- ✓ 1～4製品の安定供給体制の構築・維持及び価値最大化

再生医療等製品の開発加速

- ✓ 乳歯歯髄幹細胞 (SHED) のマスターセルバンクの確立
- 臨床開発の実施とパートナーリング活動の推進
- 新たなSHED創薬シーズ・技術の創出

再生医療等製品の価値最大化

- SHEDの再生医療等製品の上市
- 継続的な開発候補品の創出及びパートナーリングによる連続的な成長
- 海外進出、企業買収による非連続的な成長

日本から世界に羽ばたく
再生医療バイオベンチャーに

細胞治療事業 = 成長事業

バイオシミラー事業 = 収益基盤事業 (黒字化及び細胞治療事業への成長投資)

2023年度
(現在)

2025年度
(売上高:30億円、営業利益:10億円)

黒字化

2030年度～

キッズウェル・バイオとは

安定的な収益基盤を持ち
 小児疾患、難病、希少疾患の克服を目指す
再生医療系創薬ベンチャー

安定的な収益基盤
(バイオシミラー事業)

上市済みバイオシミラー3製品の売上は引き続き拡大予測
今年度はさらに4製品目の販売承認を見込み、売上への貢献を想定

2026年3月期目標：売上高30億円/**営業利益10億円**

企業価値向上への取り組み
(細胞治療事業)

乳歯歯髄幹細胞（SHED）の基礎研究の大幅な進捗と臨床開発入り
開発パートナー候補先との契約締結の蓋然性が高まる

成長戦略

SHED創薬のトップランナーとして
提携製薬企業等と共にSHED医薬品市場を切り開き
企業価値向上の実現へ

KIDS WELL, ALL WELL

こどもの力になること、こどもが力になれること

Kidswell.Bio



本資料はキッズウェル・バイオ株式会社（以下、当社という）をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に含まれている今後の戦略・計画、将来の見通し及び その他将来の事象等に関する記載には、本資料の発表時点において合理的に入手可能な情報に基づく当社の仮定、見込み等が含まれます。そのため、実際の業績、開発進捗等は、今後の研究開発の成否や将来における当局の対応、事業パートナーの状況等、現時点では不明又は未確定な要因によって、本資料の記載とは異なる結果となる可能性があります。

補足情報

2024年3月期 第1四半期 業績ハイライト

(単位：千円)

科目	2023年3月期 1Q実績	2024年3月期		通期予想	進捗率
		1Q実績	対前年比		
売上高	610,878	45,979	8%	3,500,000	1%
売上原価 (対売上高比率)	292,703 --	853 --	0%		
売上総利益	318,175	45,126	14%		
販売費及び一般管理費 (対売上高比率)	356,167 --	500,175 --	140%		
研究開発費 (対売上高比率)	105,490 --	312,535 --	296%	1,600,000 --	20%
その他販管費	250,676	187,640	75%		
営業利益	△37,991	△455,049	--	△1,500,000	--
経常利益	△80,652	△470,326	--	△1,550,000	--
四半期純利益	△80,954	△470,629	--	△1,550,000	--

- ・ 通期予想に対しては、概ね計画通りに進捗
- ・ 販売が好調なGBS-007を含む、上市済み製品による売上高への貢献は下期に集中する見込み
- ・ 乳歯歯髄幹細胞（SHED）の研究開発は順調に推移

貸借対照表 -2024年3月期 第1四半期-

(単位：千円)

科目	2023年3月期 4Q	2024年3月期 1Q
流動資産	3,697,155	2,846,479
（現預金）	1,067,162	623,787
（売掛金）	1,088,766	170,945
（製品）	213,007	258,596
（仕掛品）	422,308	868,494
（前渡金）	821,536	821,533
（1年内回収予定の関係会社長期貸付金）	--	--
（その他）	84,373	103,122
（貸倒引当金）	--	--
固定資産	197,609	197,303
資産合計	3,894,765	3,043,782
流動負債	1,055,839	767,221
固定負債	1,605,420	1,508,375
負債合計	2,661,259	2,275,596
純資産合計	1,233,505	768,186
負債・純資産合計	3,894,765	3,043,782

・ 2023年7月にエクイティファイナンスを開始 ⇒ 第2四半期以降において、現預金水準及び自己資本比率の改善を見込む